

「ひかり」と「みどり」と
「いのり」のまち

糸満市

- 面積 —— 46.63km²
- 人口 —— 57,829人(平成20年1月31日現在)
- 市魚 —— タマン(ハマフエフキ)
- 市花 —— 日日草
- 市木 —— ガジュマル
- 市花木 —— ブーゲンビリア

海と田園風景、今なお「旧暦」が根付く独特なまち



クヌカセー(転覆競漕)は、糸満ハーレー見どころのひとつ。

糸満市は沖縄本島最南端にあり、地形は丘陵地や平坦部、断層崖を持つ台地などで構成され、変化に富んでいます。海人(ウミンチュ)のまちとして有名ですが、南部にはさとうきび畑など田園

風景が広がり、今も旧正月を祝います。旧暦の5月4日には航海の安全と豊漁を願う糸満ハーレー(爬龍船競争)が、旧暦8月15日には糸満大綱引がにぎやかに行われます。

漁業をはじめ、野菜や果樹などの農業、畜産業が核

漁業や水産加工業が有名な糸満市ですが、農業も盛んで、特にゴーヤーは県の拠点産地、ニンジンやレタスは指定産地として豊富な生産量を誇ります。また、全国初の「パッションフルーツ・アセロラの里」として熱帯果樹の栽培にも力を入れており、地ワインも生産。このほか、琉球ガラスや漆器などの伝統工芸でも知られています。



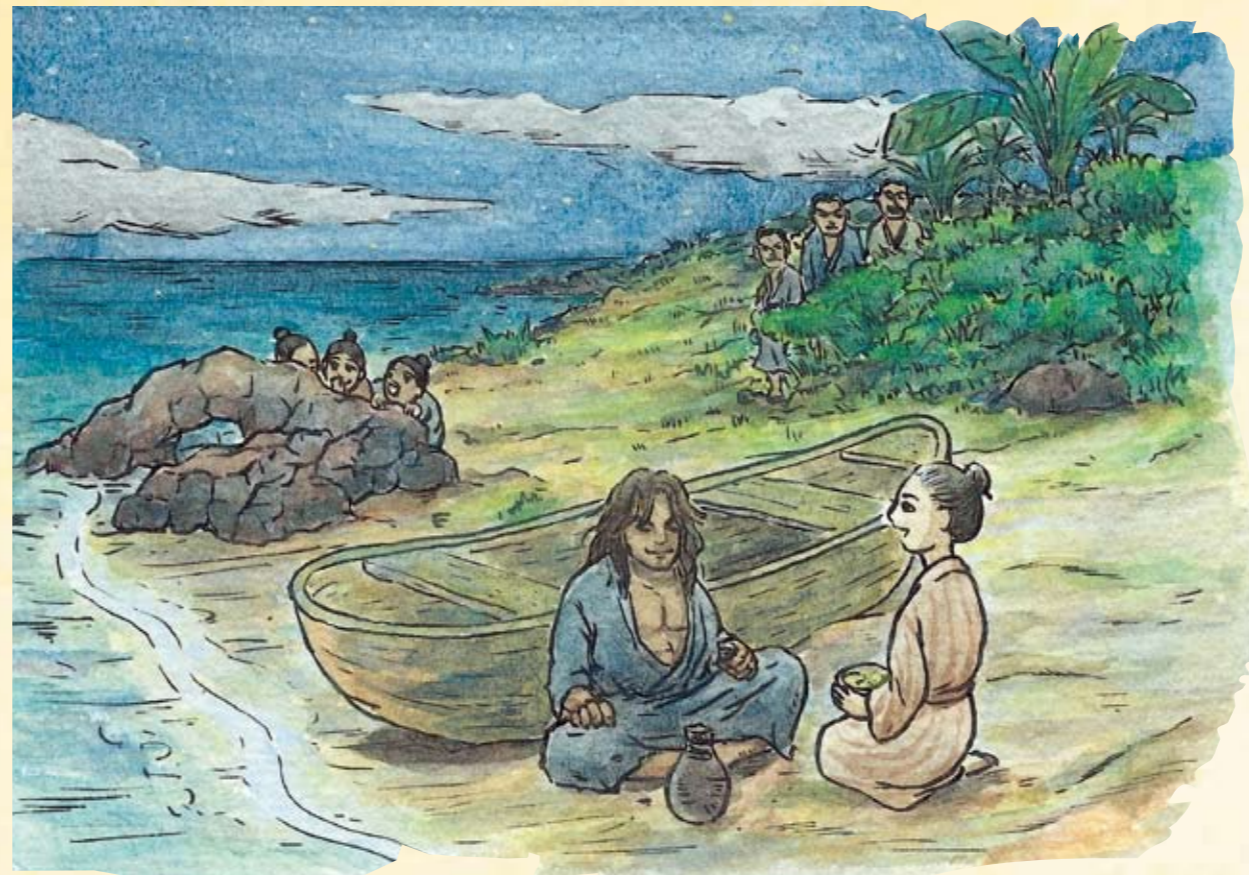
パッションフルーツ・スパークリングワイン

平和と祈りに彩られた歴史の残る都市



平和祈念公園

沖縄戦の激戦地で終えんの地でもある糸満市は「平和都市宣言」を行っており、平和の礎(いしじ)や平和祈念公園などの拠点を通じ、世界の恒久平和を発信し続けています。また、南山王統の歴史を語る上でも貴重な国指定文化財の具志川城跡をはじめ、38カ所以上のグスク跡が残る地域でもあります。このほか、伝説の残る白銀堂や照屋の石獅子などの史跡もあります。



海やからとあい引きを重ねる娘をからかう村の若者たち

やからは強く、たくらみはことごとく失敗。最後の手段として、恋仲を皮肉をこめて唄うことしかできませんでした。その唄が「海やから」だとされています。明るく華やかなこの曲は、歌詞を替えて大衆芝居の挿入歌として使われたり、久米島町兼城の獅子舞や各地のエイサーなどに幅広く使われています。

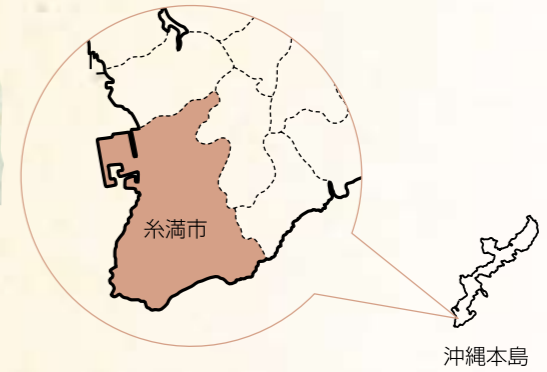
(標準語訳)

海(うみ)のつわもの(船頭)に惚れて
夜遅くまで語り遊んだため
寝過ぎしてしまい夜の明けたのも知らず
家へ帰るのが遅れてしまった
ああ心配だ 親にどう弁解したらいいか

※出典「琉球列島・島うた紀行」仲宗根幸市編著

海やから

糸満市真栄里の



沖縄本島

民謡とわらべうたで巡る
ふるさと唄紀行

監修 仲宗根幸市
イラスト 本原健至

県内各地に残る民謡やわらべうたは、懐かしい風景や当時の暮らしぶりを伝えてくれます。
うちなーの唄が誘う地域の旅へ、まじゅん行かな(さあ出かけまじゅん)！

海人(ウミンチュ)の郷「糸満」の躍動感にあふれる恋唄

「海やから」は、海(うみ)のつわものや英雄を意味し、船頭や船乗り、魚捕りの名人を指しています。船頭と田舎娘の恋を唄いあげたこの唄は、南国らしさがうまく表現された一曲といえるでしょう。打ち寄せる波のイメージや海洋民族の魂が節々に生かされ、軽快で躍動感に満ちています。

「海やから」

海(うみ)やからに惚(ふ)りてい

夜(よ)ぬ明(あ)きし知らん

いちやし親(おや)がなし

御返(うへひ)事(じ)さびが

ウミヤカラドンドン

スーリエイスーリ

